刈谷市

歴史の小径

れきしのこみち

井ケ谷 編



井ケ谷西③八幡宮

井ケ谷西 散策ルート



❶ 深興寺 【 しんこうじ 】

寺伝によれば、永正７年(1510)、広沢の丘陵（現在の愛知教育大学）に建てられた寺院である。永禄３年(1560)桶狭間の合戦の際に今川氏の兵糧基地にされたため、戦火にあい焼失。現在地に再建された。



深興寺

❷ 遊心寺 【 ゆうしんじ 】

寛正２年（1461）に天台宗の寺院として開山、のちに浄土宗に改宗したと伝わる。元亀２年(1571)織田信長によって焼き討ちされた比叡山から「毘沙門天王」が運び出され、その後この寺に祀られたという。

ポックリ寺としても知られる。

毘沙門天王像は市指定文化財。



遊心寺

❸ 八幡宮 【 はちまんぐう 】

井ケ谷の氏神である誉田別命（ほむたわけのみこと）を祀る。

創建年は不明であるが、入口には神仏習合の神社に多い両部鳥居が用いられている。



八幡宮

❹ 見性寺 【 けんしょうじ 】

曹洞宗の寺院。永享10年(1438)鳴海町瑞泉寺三世劫外乗空和尚によって開創。一時衰微したが、安永２年(1773)法雲円海和尚によって中興され、月舟宗胡禅師の法系により伝承されている。伽藍（がらん）は古い建物が多く、特に鐘楼堂は近隣ではまれな袴腰（はかまごし）の重層入母屋（いりもや）造りである。



見性寺

刈谷市全域マップ



QRコードをお読みいただくと、刈谷の地図と周辺の史跡が表示されます。

※QRコードはデンソーウェーブの登録商標です

井ケ谷 いがや

井ケ谷地区はもともと池沼が多く、「いぐさ」が自生していたことから「藺が谷」と呼んだとされ、現在の地名になったといわれている。応永16年（1409）の「熊野檀那職譲状写」に「重原本郷井加屋にしさかい」とあるのが、井ケ谷の地名の初出である。

お問い合わせ

刈谷市歴史博物館

〒448-0838　愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1
TEL：0566-63-6100　FAX：0566-63-6108
http://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/

2022.03

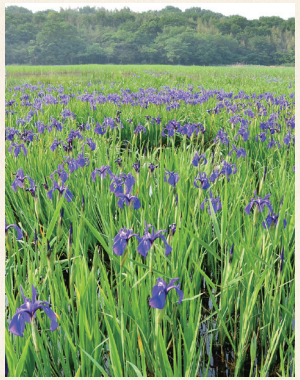


井ケ谷東 散策ルート

❶ 小堤西池 【こづつみにしいけ】

小堤西池は井ケ谷町にある面積20,330㎡の灌漑用のため池で、カキツバタをはじめとする水生・湿生の植物が数多く自生しており、昭和13年に「小堤西池のカキツバタ群落」として国の天然記念物に指定された。

日本三大カキツバタ自生地の一つである。（カキツバタの見ごろ／5月中旬～）



小堤西池

❷ 洲原池 【すはらいけ】

江戸時代に侵食谷をせきとめて築いた灌漑用のため池で、面積は約16haあり、刈谷市内で最も大きな池である。池の守護として祀られた洲原神社にちなんで洲原池と呼ばれるようになったと伝わる。

❸ 洲原神社 【すはらじんじゃ】

洲原池の守り神として建てられたと伝わるが、由来は不明である。言い伝えの一つには、度重なる堰堤の決壊に悩まされた住民が、五穀豊穣・雨乞の神として美濃国洲原神社（現岐阜県美濃市）から勧請したのが始まりとある。他には刈谷藩主土井利徳創建の説など、由来には諸説あり確証を得ることは難しい。



洲原神社

❹ 井ケ谷古窯群 【いがやこようぐん】

刈谷市の北部から豊田市の南西部には、古代から中世にかけての古窯が77基発見され、井ケ谷古窯群と呼ばれている。そのうち31基が市の指定史跡となっている。井ケ谷古窯群の中で最も古い時期の窯は8世紀後半のもので、9世紀前半頃に最盛期を迎え、9世紀後半から11世紀にかけて衰退していき、13世紀前半に生産終了となる。



井ケ谷古窯群出土品